

二〇一三(平成二五)年度 研究所報告

一 組織

所 長 浅見直一郎
主 事 藤田 義孝
委 員 高井 康弘(大学院文学研究科長)
滝川 義弘(教育研究支援部長)
八木 孝枝(教育研究支援課長)

浅見直一郎(研究・国際交流担当副学長)

乾 源俊(教授・中国文学)

古川 哲史(教授・歴史学/比較文化・社会論)

山本 和彦(教授・仏教学)

阿部 利洋(准教授・社会学)

采翠 晃(准教授・仏教学)

二 研究組織

(特別指定研究)

「建学の精神」教育推進研究

研究課題 大谷大学建学の精神の具現化

研究員 草野 顕之(研究代表者・学長・教授・日本仏

教史学)

木越 康(チーフ・教授・真宗学)

望月 謙二(教授・国語科教育学)

渡辺 啓真(教授・倫理学)
富岡 量秀(准教授・真宗学・幼児教育学)
福島 栄寿(准教授・近代日本仏教史・近代日
本思想史)

箕浦 暁雄(准教授・仏教学)

西本 祐攝(講師・真宗学)

研究補助員(RA) 拝原 祥子(博士後期課程在学)

(指定研究)

国際仏教研究

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の

収集・整理・公開

研究員 井上 尚実(研究代表者・准教授・真宗学)

織田 顕祐(教授・仏教学)

藤枝 真(准教授・宗教学・哲学)

松浦 典弘(准教授・東洋史学)

箕浦 暁雄(准教授・仏教学)

新田 智通(講師・仏教学)

嘱託研究員 Michael Pre (マールブルク大学名誉教授)

Mark L. Blum (カリフォルニア大学バークレー

校教授)

Paul Watt (早稲田大学留学センター教授)

阿満 道尋(アラスカ州立大学アンカレッジ校

准教授)

羽田 信生（毎田周一センター所長）

Michael J. Conway（本学非常勤講師）

松下 俊英（本学非常勤講師・特別研究員）

大西 和彦（本学客員研究員・ベトナム社会科学学アカデミー宗教研究院客員研究員）

研究補助員（R A） 尾崎 俊文（博士後期課程在学）

（R A） 林 研（博士後期課程在学）

（R A） 光川 眞翔（博士後期課程在学）

西蔵文献研究

研究課題 チベット語文献及びパリー語貝葉写本のデータ

ベース化

研究員 福田 洋一（研究代表者・教授・仏教学）

松川 節（教授・モンゴル学）

三宅伸一郎（准教授・チベット学）

嘱託研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）

白館 戒雲（本学名誉教授）

Gantuya M（モンゴル国立大学社会科学学部教授）

清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）

高本 康子（北海道大学スラブ研究センター学術研究員）

西沢 史仁（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

石田 尚敬（東京大学大学院人文社会系研究科特任研究員）

伴 真一朗（博士後期課程修了）

研究補助員（R A） 稲葉 維摩（博士後期課程在学）

（R A） Kim Keonjoon（博士後期課程在学）

〔資料室〕

大谷大学史資料室

整理課題 大学史関係資料の収集・整理

資料室長 藤田 義孝（研究所主事・准教授・フランス文学）

嘱託研究員 戸次 顕彰（本学非常勤講師）

研究補助員（R A） 松岡 智美（博士後期課程在学）

東本願寺海外布教資料室

整理課題 大谷大学図書館所蔵「東本願寺旧蔵資料」海外

布教関係部分の整理

資料室長 桂華 淳祥（教授・東洋史学）

研究補助員（R A） 濱野 亮介（博士後期課程在学）

デジタル・アーカイブ資料室

整理課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブ

の構築

資料室長 藤田 義孝（研究所主事・准教授・フランス文学）

〔一般研究、共同研究〕

研究課題 新出土仏教遺跡と文献史料の統合による13～17

世紀北アジア史の再構築

研究員 松川 節(研究代表者・教授・モンゴル学)

三宅伸一郎(准教授・チベット学)

協同研究員 清水奈都紀(奈良大学非常勤講師)

研究協力員(支援) 伴 真一朗(博士後期課程修了)

研究課題 デジタルアーカイブ技術による契丹国の歴史考

古言語資料の復原的研究と集成

研究員 武田 和哉(研究代表者・准教授・歴史学・考

古学・人情報学)

松川 節(教授・モンゴル学)

協同研究員 町田 吉隆(神戸市立工業高等学校教授)

等々力政彦(北海道大学スラブ研究センター共

同研究員)

高橋 学而(福岡文化学園博多女子高等学校教諭)

藤原 崇人(関西大学東西学術研究所非常勤研

究員)

武内 康則(日本学術振興会特別研究員P.D.)

研究課題 日本における西洋哲学の初期受容―フェノロサ

の東大時代未公開講義録の翻刻・翻訳―

研究員 村山 保史(研究代表者・准教授・西洋哲学・

日本哲学)

朴 一功(教授・西洋古代哲学)

渡辺 啓真(教授・倫理学)

池上 哲司(教授・倫理学)

藤田 正勝(京都大学大学院教授)

竹花 洋佑(本学非常勤講師・特別研究員)

西尾 浩二(本学非常勤講師・特別研究員)

Michael J. Conway(本学非常勤講師)

研究課題 ステイラマテイの俱舎論注釈書『真実義』梵文

写本第一章の研究

研究員 小谷信千代(研究代表者・本学名誉教授・特別

研究員)

協同研究員 秋本 勝(京都女子大学教授)

福田 琢(同朋大学教授)

本庄 良文(佛教大学教授)

松田 和信(佛教大学教授)

箕浦 暁雄(准教授・仏教学)

上野 牧生(短期大学部助教・仏教学)

加納 和雄(高野山大学助教)

松下 俊英(本学非常勤講師・特別研究員)

研究課題 自主的主体的に学習する子どもを育てる教育実

践の実証的研究

研究員	関口 敏美（研究代表者・教授・教育学・教育史） 望月 謙二（教授・国語科教育学） 市川 郁子（准教授・教育学・音楽科教育） 山内 清郎（准教授・教育人間学・臨床教育学） 岩測 信明（特別任用教授・社会科教育） 高山 芳治（特別任用教授・社会科教育学） 大野 僚（本学非常勤講師）	世の中国語文法） 柴田みゆき（准教授・情報処理学） 清水由香里（本学非常勤講師） 早川 智美（本学非常勤講師）
協同研究員		
研究課題	学際的利用を可能とするマルチプラットフォーム △対応型系図表示ソフトウェアの研究	〔一般研究／個人研究〕 研究課題 民族文化祭の総合的研究 研究員 飯田 剛史（教授・社会学）
研究員	柴田みゆき（研究代表者・准教授・情報処理学） 宮下 晴輝（教授・仏教学・人文情報学） 酒井 恵光（講師・計算機科学） 松浦 亨（北海道大学病院准教授） 杉山 正治（立命館大学情報理工学部助教） 生田 敦司（本学非常勤講師） 横澤 大典（本学非常勤講師） 清水 利明（一般財団法人比較法研究センター 特別研究員） 平塚 聡（立命館大学研修生） 齋藤 晋（国土利用再編研究所副理事長）	研究課題 変動期の社会における法秩序の再構築―南アフリカとカンボジアの比較社会学的研究 研究員 阿部 利洋（准教授・社会学） 研究課題 プラトンの中期イデア論の生成 研究員 西尾 浩二（本学非常勤講師・特別研究員） 研究課題 日本で発見されたオリヤー語『マハーバラタ』「津島貝葉」の校訂テキスト作成 研究員 ダッシュシヨバラニ（講師・インド学・仏教学）
研究課題	80年代後の北京語に関する調査研究	研究課題 保育者の悩み・学習ニーズの変容と同僚性を基礎とした研修に関する実証的研究 研究員 黒澤 祐介（任期制助教・特別研究員）
研究員	渡部 洋（研究代表者・准教授・中国語・近	

- | | | | |
|------|---|------|-------------------------------------|
| 研究課題 | 「民族学校」の日韓比較研究―日本の「朝鮮学校」と韓国「華僑学校」を中心に― | 研究員 | 高橋 真（任期制講師・比較認知科学） |
| 研究員 | 宋 基燦（任期制助教・特別研究員） | 研究課題 | インド・チベットにおける般若学の研究 |
| 研究課題 | 触法知的障害者の更生と地域生活定着を促進するピアサポートプログラムの開発と評価 | 研究員 | 白館 戒雲（本学名誉教授・特別研究員） |
| 研究員 | 脇中 洋（教授・発達心理学・法心理学） | 研究課題 | 『中辺分別論』の未解説チベット語註釈写本の研究 |
| 研究課題 | バガヴァティー・アラーダナーの新版訂本作成と全訳によるジャイナ教の断食死研究 | 研究員 | 松下 俊英（本学非常勤講師・特別研究員） |
| 研究員 | 河崎 豊（任期制助教・特別研究員） | 研究課題 | ダイケンズと絵画 |
| 研究課題 | タイ国を中心とする東南アジア撰述仏教説話写本の研究 | 研究員 | 木島菜菜子（任期制助教・特別研究員） |
| 研究員 | 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員） | 研究課題 | 「宗教間体験の現象学」構築のための基礎的研究 |
| 研究課題 | 後期田辺哲学における象徴概念の研究 | 研究員 | 古荘 匡義（任期制助教・特別研究員） |
| 研究員 | 竹花 洋佑（本学非常勤講師・特別研究員） | 研究課題 | 日本泳法 神統流の伝承と史の実相に関する調査研究 |
| 研究課題 | グローバル化時代における「人権」概念とセクシャル・マイノリティの包摂 | 研究員 | 中森 一郎（教授・体育学） |
| 研究員 | 赤枝香奈子（任期制講師・社会学） | 研究課題 | 摂食抑制及び食べ過ぎに関する認知的研究 |
| 研究課題 | 共感覚の進化的基盤を探る | 研究員 | 田中久美子（准教授・社会心理学・教育心理学） |
| | | 研究課題 | 戦後沖縄芸術思想史論―彫刻家・金城実の親鸞思想に関する領域横断的研究― |

研究員 福島 栄寿（准教授・近代日本仏教史・近代日

本思想史）

三 指定研究の動向

「建学の精神」教育推進研究

本研究では、「建学の精神」の具現化を課題とし、以下三つの視点から研究を推進してきた。

- ① 「建学の精神」の現代的表現化
- ② 「人間学Ⅰ」の共通資料集の作成
- ③ 「建学の精神」を活かした学科教育の在り方

「建学の精神」とは、直接には大谷大学初代学長清沢満之による「開校の辞」（明治三四年、移転開校式）と第三代学長佐々木月樵による「大谷大学樹立の精神」（大正一四年入学者宣誓式訓辞）を指す。研究の視点①では、本学が今日まで教育の根幹に据えてきた両学長の訓辞の意義を再確認し、これを現代的形で表現していくことを目指している。視点②では、本学の「建学の精神」に基づく教育を最も体現する科目である「人間学Ⅰ（文学部）」あるいは「仏教と人間Ⅰ（短期大学部）」に関して、教育の基礎となる共通資料の作成に向けた検討が期待された。当初は「人間学Ⅰ」における仏教教育全般にわたる共通資料の作成が目指されたが、焦点を絞り、「建学の精神」に特化したテキストを作成する方向で検討を進め、上記①の研究内容を踏まえ、学生のみならず、教職員が共通に「建学の理念」を学ぶことができるような基本テキストの

作成を行った。視点③については未着手である。

本年度は、主に視点②における「建学の精神」基本テキストの作成に向けた検討と編集作業を重ね、年度末の刊行を実現した。二〇一四年度は、実験的に数クラスでテキストを使用し、修正・ブラッシュアップしたものを二〇一五年度以降、全学的に使用する。

【テキストの狙いと構成】

「狙い」

①大谷大学の学生ならびに教職員間で、「建学の精神」についての理解を共有することを目的とする。

②大谷大学における「学び」に対して各人が共通の目的意識を持ちながら、それぞれの分野において主体的に取り組みことができる環境を構築する礎とする。

清沢満之の「真宗大学開校の辞」と佐々木月樵「大谷大学樹立の精神」が、大谷大学の「建学の精神」を最もよく表現したものであるという認識に立ち、両訓示に対する理解を深めることよって、上記の目的を果たしていく。新入生および新任教職員学習用テキストとして作成するが、作成初年度については全学で共有できる機会を設けることが望ましい。新入生については、「人間学Ⅰ」及び「仏教と人間Ⅰ」の授業で使用するごととし、九〇分二コマ分の分量を想定して作成した。単なる大学史の紹介や学習ではなく、歴史を通して先人が求めてきた「精神」開発の内容について、考えてもらう

機会とする。

〔構成〕

はじめに／大谷大学のあゆみ／「建学の精神」を学ぶにあたって／真宗大学開校の辞（原文・語注・解説）／大谷大学樹立の精神（原文・語注・解説）／真宗大学開校の辞（英訳・現代語訳）／大谷大学樹立の精神（英訳・現代語訳）／略歴（清沢満之・佐々木月樵）／年表（総頁数三二頁）

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。本年度も英米班、ドイツ・フランス班、東アジア班、ベトナム班の四班に分かれて研究活動を進めてきた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

〈英米班〉

一 翻訳研究活動

(一) 次期翻訳研究プロジェクトの計画

二〇〇一年に、それまで長年取り組んできた近代教学アンソロジー（清沢・曾我・金子・安田）英訳が *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* としてニューヨーク州立大学出版から刊行され、引き続き短期プロジェクトとして四年間取り組んだ佐々木月樵「大谷大学樹立の精

神」の英訳が、二〇一二年度末に研究所の『研究紀要』第三〇号に掲載された (pp. 1-33)。今年度は、次期翻訳研究プロジェクトの計画に入り、中長期的に英訳研究に取り組むべき真宗関係テキスト選定を進めたが決定は二〇一四年度に持ち越すことになった。

(二) 『浄土の真宗』『宗門の歩み』英訳出版への協力

阿満道尋囑託研究員（アラスカ大学アンカレッジ校）を中心に、真宗大谷派北米開教区真宗センターから出版予定の教師課程教科書『浄土の真宗』『宗門の歩み』の英訳について、翻訳チェックと編集校正に協力することになり、初年度は六月二十七日と七月五日に研究会を開き、現状と出版までの作業について確認して計画を立てて作業に入った。

二 国際学会・シンポジウム関係

(一) 第一六回国際真宗学会 (IASBS) 大会

五月三一日から六月二日の三日間、カナダのバンクーバー市、ブリティッシュ・コロンビア大学で開催された学会大会に参加し、英米班を中心に企画した大谷大学・龍谷大学合同パネルで“Original Features in Shinran's Pure Land Thought Focusing on His Elucidation of Faith and Realization”（親鸞の浄土思想の特質―その信と証の解明に注目して―）というテーマの研究発表を行なった。マイケル・コンウェイ囑託研究員（司念）、嵩満也教授（龍谷大学）、木越康教授（特

別招聘者）、那須英勝教授（龍谷大学）、井上尚実研究員、ゲイレン・アムシュタツ博士（特別招聘者、応答者）の七名で構成されたパネルの詳細については『研究所報』第六三号に掲載された木越教授による学会参加報告を参照。パネル論文はまとめて学会誌 *The Pure Land* に投稿する方向で準備を進めている。

なお、マーク・ブラム囑託研究員（カリフォルニア大学バークレー校）、阿満道尋囑託研究員（アラスカ大学アンカレッジ校）、マイケル・コンウェイ囑託研究員は、それぞれ以下のような個人研究発表を行なった。

Mark L. Blum, "Centering the Marginal: The Role of Bessho and Sanjo in the Spread of Nenbutsu."

Arna Michihiro, "Buddhist Confession in Modern Japan"
Michael Conway, "A Transformative Expression: The Role of the Name of Amittuo Buddha in Daochuo's Soteriology"

(一) ELTE 東アジア研究所と共催の国際シンポジウムを開催
一〇月二六日と二七日、ハンガリーの学術提携校エトヴェシ・ロラント大学 (Eötvös Loránd University, ELTE) を会場に開催された大谷大学真宗総合研究所・ELTE 東アジア研究所共催の国際シンポジウム「仏教における信」(Faith in Buddhism) に参加した。英米班を中心に企画してロバート・F・ローズ教授、藤嶽明信教授、織田顕祐教授、井上尚実研究員、マイケル・コンウェイ囑託研究員の五名が以下の

研究発表を行なった。

織田顕祐『大乘起信論』における「信」の概念」

藤嶽明信「親鸞が明らかにした信心—如来回向の信心—」

Robert F. Rhodes, "Faith and Practice in Genshin's Ōjōyōshū"

Takami Inoue, "Genealogy of Other-Power Faith: From Sakyamuni to Shinran"

Michael Conway, "Dharmakara as the Subject, Not Object, of Faith: The Reinterpretation of Amida's Causal Phrase in Modern Shin Thought"

公募によって選ばれた博士課程学生二名も七月二日、八月一日、九月三〇日に開かれた事前研究会から参加し、シンポジウムに同行して ELTE の研究者や博士課程学生と学術交流を行なった。シンポジウムの発表論文は ELTE 東アジア研究所発行の *Budapest Monographs in East Asian Studies* の一冊として二〇一四年度中に出版される。

(三) 二〇一四年度の海外学会への発表申し込み等

① 第一七回 国際仏教学会 (IABS) 大会 (二〇一四年八月一八日～二三日、オーストリア、ウィーン大学) に井上尚実研究員、マイケル・コンウェイ囑託研究員が発表申し込みを行い、認められた。

② 第一四回 ヨーロッパ日本研究協会 (EASJ) 国際会議 (八月二七日～三〇日、スロヴェニア、リュブリャナ大学) の

宗教部会に大谷大学パネル“Images of Shinran in Twentieth Century Japan: Perspectives from Inside and Outside the Shin Denomination”(20世紀における親鸞像：真宗教団の内側と外側からの視座)(阿満道尋囑託研究員、井上尚実研究員、マイケル・コンウェイ囑託研究員、ロバート・F・ローズ教授)として発表申し込みを行い、認められた。

③ 第一五回 国際真宗学欧州支部大会(九月一日～四日、イギリス、サウザンプトン大学)

三月三十一日の発表申し込み締め切りまでに、班内で検討して申し込み予定。

④ その他：二〇一五年夏に開催予定の第一七回国際真宗学会(IASBS)大会(八月上旬、バークレー市)と第二一回国際宗教学宗教史会議(IARR)世界大会(八月二三日～二九日、ドイツ、エルフルト大学)についても、パネル発表を視野に入れて大まかな検討を始めた。

(四) シンポジウム開催の準備

アンソロジー英訳 *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* の出版を記念した近代教学をテーマとするシンポジウムを大谷大学で開催する計画を進めた。編集を担当したマーク・ブラム教授(囑託研究員)、ロバート・F・ローズ教授に加えてオバリン大学のジェームズ・ドビンス教授らとミーティングを行い、開催時期については二〇一五年度の前期、六月二十七日と二十八日の両日とする方向で、

主たる招待予定者に参加打診を始めた。開催一年前の二〇一四年六月末を目処に開催計画を発表できるように準備を進めていく。

三 公開講演会の開催

今年度は以下のような二回(三人の研究者)の公開講演会を開催した。

(一)二〇一三年七月一日 午後四時二〇分～午後五時五〇分
講演：阿満道尋氏(アラスカ州立大学アンカレッジ校准教授)
授)

「真宗大谷派における北米開教の現状について」

会場：マルチメディア演習室(響流館三階)

(二)二〇一四年一月二〇日 午後四時二〇分～午後六時
テーマ「日本仏教とグローバル化」

講演：James Mark Shields ジェームズ・マーク・シール

ス氏(バックネル大学准教授)

“Warp and Woof: Meiji New Buddhism as a Response to Globalization”

(経と緯：グローバル化への対応としての明治新仏教)

講演：Ugo Dessi ウーゴ・デッスィー氏(ライプツィヒ大学宗教学研究講師)

“Japanese Buddhism and Globalization: A Multi-dimensional Approach”

（日本仏教とグローバルイノベーション：多面的なアプローチ）

会場：マルチメディア演習室（響流館三階）

〈ドイツ・フランス班〉

一 学会参加・研究発表

◇第二三回世界哲学会議参加報告

二〇一三年八月四日から一〇日まで、ギリシアのアテネ大学において、第二三回世界哲学会議（XXIII World Congress of Philosophy）が開催された。当会議は、哲学・思想関連の研究発表を募って五年毎に開催されるものであり、今回はその開催にあたって「探求と生き方としての哲学（Philosophy as Inquiry and Way of Life）」という大会のテーマを掲げた。また、今回は西洋哲学の発祥の地であるギリシアでの開催とあって、世界中から三〇〇〇人を超える参加者を集めた。

国際仏教研究班からは、藤枝真研究員（本学准教授）と Michael J. Conway 嘱託研究員（本学非常勤講師）が参加し、研究発表をした。大会初日の四日から講演会や口頭発表、シンポジウムがスタートし、ロシアの Boris Yudin を司会者とする「生命倫理（Bioethics）」の部会では藤枝真研究員が “Between the secular and the religious: Japanese Buddhism

in the public discourse on the issues of organ transplant”

（世俗と宗教のはざまで：臓器移植に関する公的議論における日本仏教）と題する発表を行った。また、六日には末木文美士を司会とする「仏教哲学（Buddhist philosophy）」の部会が開かれ、マイケル・コンウェイ嘱託研究員が “The role of the doctrine of *nofa* in Daochu's thought”（道綽における *nofa* 教説の意義）と題する発表を行った。またこの日には、J・ハーバーマスを迎えた記念講演セッションや、生誕二〇〇周年を迎えるキルケゴールに関する発表（コペンハーゲン大学キルケゴール研究センターの研究員らによる）があった。

九日には、キルケゴール生誕二〇〇周年を記念して午前中、一、午後二つのラウンドテーブルが開かれ、多くの発表者・聴講者が集まった。全体のテーマは、キルケゴールとギリシア哲学・宗教・文化との関係を探ろうとするものであり、様々な研究上の関心から、北欧の思想と南欧の思想が横断的に考察された。午前のラウンドテーブル “Kierkegaard's Relation to Greek philosophy, religion and culture” では Abraham Khan（カナダ）が司会者を務め、藤枝真研究員が “Philosophy in the city: A socio-political reading of the Kierkegaardian notion of the public”（市中の哲学：キルケゴールの “public” の概念に関する社会・政治的読解）と題する発表を行った。

二 研究者との交流・調査

上記の大会の後に、デンマークの宗教学・仏教学研究者と交流し、またデンマーク王立図書館での情報収集を行った。今回お話ししたエスベン・アンドレアセン (Esbén Andreasen) 氏は、仏教研究・翻訳や、日本・中国の宗教研究をデンマーク語や英語で多数出版している。真宗総合研究所に客員研究員として滞在していたこともある研究者である。

三 シンポジウムの論文化と刊行準備

二〇一〇年にフランス国立高等研究院においておこなわれたシンポジウム「フランスと日本におけるナショナル・アイデンティティと宗教」で口頭発表した原稿を加筆修正し、論文化(英語・フランス語)したものを同研究院のフィリップ・ポルティエ教授に送り、フランスでの刊行の準備が進んでいる。二〇一四年度にフランスの出版社から出版されることと決定している。

ロバート・F・ローズ “The Buddhist-State Relationship in Japan: Some Observations on the Thought of Saichō and Kūkai. Two Early Medieval Monks of the Ninth Century (日本における仏教と国家—最澄と空海の思想についての一考察)”

村山保史 “State and Religion in the Thought of D. T. Suzuki” (鈴木大拙の思想における国家と宗教)

藤枝 真 “Keeping Up the Grand Narrative: National Identity and State Shintoism in the Public Sphere” (「大きな物語」を保ち続けること：公共領域におけるナショナル・アイデンティティと国家神道)

番場寛

“Essai sur le discours religieux dans le Japon contemporain - Autour des différents noms de Shintan et du Namamidabutsu” (宗教の〈ディスクール〉への試論—親鸞と南無阿弥陀仏の異名をめぐって)

〈東アジア班〉

一 中国社会科学歴史研究所との共同研究

中国社会科学歴史研究所とは二〇一〇年に学術交流協定を締結し、共同研究「中国華北・東北・東部モンゴル地域の宗教と文化」をテーマとして研究活動を推進してきた。本年度は四年目に当たり、先方から二名が本研究所を招聘、本研究所から二名を先方へ派遣し、共同研究を行い、学術交流を深めた。また、今後の交流に関する協議も行った。

(一)二〇一三年二月三日～九日、王震中研究員・関樹東副研究員の二名を招聘し、本学にて研究活動を行い、公開研究会を開催した。

日時：二〇一三年二月六日 午後四時～午後六時

講演…王震中氏「中国の国家の起源と発展についての研究の最新進展」

関樹東氏「耶律和魯幹、耶律淳父子と遼東の政治」

会場…マルチメディア演習室（響流館三階）

（二）二〇一四年三月三日～六日、福島重非常勤講師、今西智久任期制助教が、中国社会科学院歴史研究所を訪問し、研究発表を行った。

日時…二〇一四年三月四日

講演…福島重（本学非常勤講師）

「関于奴兒干、永寧寺的設置和意義―以十四～十五世紀中国東北仏教史的究明為目標」

講演…今西智久（本学任期制助教）

「関于中国中古的沙門觀及沙門致拜君親―隋煬帝期の礼敬問題為主」

二 公開講演会の開催

京都大学人文科学研究所に訪問研究員として滞在中の朱玉麒氏（北京大学歴史学部及び中国古代史研究中心研究員）を講師として招聘し、本学博物館所蔵の大谷瑩誠蒐集「蒙古古石梵經硯」に関する公開講演会を開催した。

日時…二〇一四年二月一〇日 午後三時三〇分～五時三〇分

場所…マルチメディア演習室（響流館三階）

○大谷大学博物館所蔵「蒙古古石梵經硯」を巡って
朱玉麒

〈ベトナム班〉

二〇一三年六月三日～七日

共同研究の協定締結に先立って、ベトナム社会科学院宗教研究院院長グエン・クオック・トゥアン氏が同宗教研究院客員研究員の大西和彦氏と共に来訪し、学術交流について意見交換をした。六月四日には、午前一〇時四〇分～一二時に一二三教室において、トゥアン院長が「ベトナムの宗教と仏教」と題して講演を行った。

九月二四日～二九日

同宗教研究院副院長チュー・ヴァン・トゥアン氏ら五名の社会科学院の研究員が大西和彦氏と共に来訪し、宗教研究院と真宗総合研究所国際仏教研究ベトナム班との共同研究について、とりわけ『越日仏教辞典』（仮称）編纂について議論した。

一二月二五日

真宗総合研究所がベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との間に学術交流に関する協定書を交わし、正式に共同研究を開始することとなった。

二〇一四年三月六日～一〇日

織田顕祐研究員と箕浦暁雄研究員がハノイのベトナム社会科学研究アカデミー宗教研究院を訪問。『越日仏教辞典』の編纂計画について協議した結果、辞典編纂に先立つ基礎作業として、まずは日本語で読める『ベトナム仏教概説』（仮称）とベトナム語で読める『日本仏教概説』（仮称）を編纂する方向性が定まった。また、ベトナム滞在中に寺院や博物館を視察し、バクザン省ビンギエム寺（永厳寺）に保管されている仏典の版木が持つ資料的価値について宗教研究院のトゥアン院長や研究員の方々と意見交換した。

西蔵文献研究

一 チベット語文献の電子テキスト化

ツァンナクパ（一二世紀）が著したタルマキールテイ著『量決扱』の注釈書（大谷蔵外No.13971）の電子テキストについて校訂・編集作業を進めた。科文を整理し、『量決扱』の注釈箇所や引用の典拠を特定して校訂テキストに注記した。また、福田洋一（研究員）、石田尚敬（嘱託研究員）を中心として訳注作成のための研究会を開催した。

『サンブ明鏡史』（大谷蔵外No.13981）については、西沢史仁（嘱託研究員）が校訂テキストと和訳を作成し、研究会を開催して、その検討を行った。その結果の校訂本と和訳は、二〇一四年度に刊行する予定である。

また、『俱舍論語義解明・善説の陽光』（蔵外No.13972）の

電子テキスト入力が完了し、本年度末にWeb上にて公開する。

二 北京版チベット大蔵経の写真撮影とネット上での公開方法の検討

北京版チベット大蔵経の写真撮影については、その方法を班内で検討したものの、具体的に撮影をするには様々な問題があることがわかり、実現するには至らなかった。

三 パーリ語貝葉写本のデジタル化

大谷大学図書館蔵稀観写本『マハーブッダグナンヴァータ・アッタカター (Mahabuddhaganavata arthakatha)』については、清水洋平（嘱託研究員）と船橋智哉氏によりクメール文字からローマ字への転写が完了した。作成したローマ字転写テキストは、『研究紀要』第三二号に掲載される。

大谷大学所蔵のパーリ語貝葉写本の来歴を明らかにする可能性のある一三世紀のクメール文字パーリ語貝葉写本が長崎県平戸市に存在することがわかり、清水洋平が二〇一四年三月二日～三月四日の日程で調査を行う。また、清水は三月一日～三月二日の日程で、タイのバンコクにあるワット・ポー寺院にて稀観写本の調査を行う。

四 寺本婉雅の日記の翻刻

村岡家所蔵・寺本婉雅関連資料に含まれる寺本婉雅の二種

類の日記のうち、刊行済みの『藏蒙旅日記』（芙蓉書房、一九七四年）では記述の薄い、あるいは記述のない一八九九年九月一日～一九〇〇年二月三十一日（最終記事は一九〇〇年七月二十七日）間の日記『新旧年月事記』の翻刻が終了した。翻刻は高本康子（嘱託研究員）が担当し、難読箇所については三宅伸一郎（研究員）とともに現物を確認し、確定作業をおこなった。こうして作成された翻刻は、解題を付して『研究紀要』第三一号に掲載予定である。また、もう一種類の日記『第二回西藏探検日記（在北京之部）』（二冊。一九〇一年一月～一九〇二年七月までの日記）についても、来年度の翻刻作業の準備として、スキャンしてPDF化をおこなった。

五 海外の研究者、研究機関との交流

二〇一三年七月一日にモンゴル国立大学社会科学部との間で締結された学術交流協定に基づき、共同研究「モンゴルにおける仏教の後期発展期（二三世紀～一七世紀）の仏教寺院の考古学・歴史学・宗教学的研究」を開始した。今年度は、松川節（研究員）、武田和哉（嘱託研究員）、三宅伸一郎が参加して、八月七日～八月一六日に、モンゴル国ドンドゴビ県のスム・フフ・ブルド寺址、オボルハンガイ県のホグノ・タルニン・オブゴン寺址、オボルハンガイ県のハル・バルガス遺蹟、ノゴーン・バルガス遺蹟、ボルガン県のハルボハ都城址の共同調査をおこなった。松川は『研究所報』第六三号（pp. 50-53）にその報告を掲載した。

七月二一日～二七日にモンゴル国立大学で開催された第一回国際チベット学会に、松川節と三宅伸一郎が参加した。

松川は「New Perspective on the Historical Evidences and archaeological findings from Monastery Erdene-Zuu（エルデネーゾー寺院出土考古遺物と歴史史料の統合によるモンゴル仏教史構築への新たな展望）」というテーマで、モンゴル語による報告を、「三宅は「A mdo nā yang dgon pai bla na dang ye shu chos lugs spel mkhan bol hel bar gyi chos rtsod skor（アムド・マヤン寺のラマとキリスト教宣教師ボルヘルとの宗教議論について）」というテーマで、チベット語による報告をおこなった。本学会の参加報告は、「三宅が『研究所報』第六二三号（pp. 36-37）に掲載した。

七月二日～七月八日にポルトガルのリスボンで開催された第五回ヨーロッパ東南アジア学会議（5th European Association for South East Asian Studies Conference）に清水洋平が参加し、写本などの第一次資料の研究をテーマにしたパネル（Panel 95: Digging up Hidden Sources: The Changing Roles of Libraries and Archives in Southeast Asian Studies）に「Importance of Primary Source Materials: With a Special Reference to the Buddhist Manuscripts of Thailand（一次資料の重要性：タイの仏教写本を中心として）」とのタイトルで研究発表をおこなった。

以上のように、海外での調査研究・国際学会での研究発表をおこなうとともに、以下のように、海外のチベット学研究

者を招いて公開研究会を開催した。

(一)二〇一三年六月一日 「歴代アジャ・リンポチエの事績について」講師：アジャ・リンポチエロプサン・トゥブテン・ジクメー・ギャツォ師 (A skya rin po che Blo bzang thub bstan 'jigs med rgya mtsho' ナベット・モンゴル仏教文化センター・センター長／元クンブム大僧院僧院長) 「講演内容については、三宅伸一郎が『研究所報』第六三号 (pp. 47-48) において報告した」

(二)二〇一三年六月二十六日 「モンゴルにおけるチベット研究の歴史と現状」講師：M・ガントヤー博士 (モンゴル国立大学社会科学部宗教研究学科長) 「松川節による翻訳された講演原稿が『研究紀要』第三一号に掲載 (pp. 237-250)」

(三)二〇一三年一月二十九日 「ボン教聖地の現状について」講師：ツルティム・テンジン師 (ティテン・ノルプツェ僧院瞑想学学堂堂長)

(四)二〇一四年三月七日 「モンゴルの仏教文献：ガンダン寺所蔵チベット語文献の概要」N・アムガラ師 (モンゴル国ガンダン寺学術文化研究所)

執筆者紹介（二〇一五年三月三十一日現在）

- 金子 彰 二〇一二年度一般研究（加来班）協同研究員・東京女子大学教授
高橋陽一 二〇一二年度特定研究（「建学の精神」教育推進研究）講師・武蔵野美術大学教授
松浦典弘 二〇一三年度指定研究（国際仏教研究）研究員・本学准教授
西本祐攝 二〇一三年度特定研究（「建学の精神」教育推進研究）研究員・本学講師
関口敏美 二〇一三年度一般研究（関口班）研究代表者・本学教授
市川郁子 同 研究員・本学准教授
望月謙二 同 研究員・本学教授
高山芳治 同 協同研究員・本学特別任用教授
中森一郎 二〇一三年度一般研究（中森班）研究代表者・本学教授
柴田みゆき 二〇一三年度一般研究（柴田班）研究代表者・本学准教授
生田敦司 同 協同研究員・本学非常勤講師
杉山正治 同 協同研究員・立命館大学助教
齋藤 晋 同 協同研究員・国土利用再編研究所副理事長
横澤大典 同 協同研究員・本学非常勤講師
松浦 亨 同 協同研究員・北海道大学病院准教授
田中久美子 二〇一三年度一般研究（田中班）研究代表者・本学准教授
福島栄寿 二〇一三年度一般研究（福島班）研究代表者・本学准教授
渡部 洋 二〇一三年度一般研究（渡部班）研究代表者・本学准教授
早川智美 同 協同研究員・本学非常勤講師
清水由香里 同 協同研究員・本学非常勤講師
黒澤祐介 二〇一三年度一般研究（黒澤班）研究代表者・兵庫大学短期大学部講師
須藤孝也 大谷大学真宗総合研究所特別研究員（PD）・電気通信大学非常勤講師
福井 敏 二〇一四年度一般研究（武田班）協同研究員・本学非常勤講師